

26. 採種林の施業法

1 試験担当者

造林部長：加藤善忠

造林部種子研究室：浅川澄彦 ほか

土壌部土壌肥料科長：塘 隆男

2 試験目的

林木育種事業の進展にともない、優良個体によつて造成された採種林の結実量を増大し、タネの品質を向上せしめるための施業方法を確立する。

3 昭和43年度の経過とえられた結果

アカマツ

所定の処理を行ない、第7回の結実調査を行なつた。全般に前年度より作柄が低下したが、施肥区では結実量の低下はかなりくいとめられ、本数密度の低い方が単木あたりの結実量が多かつた。一方無施肥は本数密度にかかわらず作柄が著しく低下した。

スギ

これまでとほぼ同様の試験地を矢板署管内に設定し、間伐による本数密度の調査と施肥を行なつた。

4 昭和44年度試験計画

アカマツについては、10月上旬第8回結実調査 45年2月施肥。

スギについては、6月上旬施肥、結実促進、10月上旬結実調査、11月上旬葉分析試料採取。